令和２年度石狩市学校支援地域本部

事 業 報 告 書









令和３年　３月

石狩市学校支援地域本部運営委員会

石狩市学校支援地域本部事業　令和２年度　事業報告書

◇　目　　次　◇

◇巻頭言　～運営委員長挨拶～◇ 運営委員長　吉田篤弘　・・・・ 1

◇学校関係者から◇・・・(各関係小中学校長)　・・・・・・・・・2～5

◇ボランティア実施状況◇　・・・・・・・・・・・・・6～7

◇学校支援ボランティアの実践◇

花川北中・紅南小・双葉小　・・・・・・・・・・・・・8～9

花川中　・・・・・・・・・・・・・・10

南線小　・・・・・・・・・・・・・・11

生振小　・・・・・・・・・・・・・・12

◇関係者からのコメント◇　・・・・・・・・・・・13～18

対象者～各校担任、事業担当教諭、町内会の役員など

◇あい風寺子屋教室◇

実施状況・活動風景(花川南小)　・・・・・・・・・・・19～21

実施状況・活動風景(紅南小)　・・・・・・・・・・・22～24

関係者からのコメント　・・・・・・・・・・・25～28

対象者～南小、紅南小の教頭や担当教諭、寺子屋の各講師など

■あい風寺子屋教室成果と課題　・・・・・・・・・・・・・29

◇放課後すこやかスポーツ教室◇　・・・・・・・・・・・30～31

■すこやかスポーツ教室成果と課題

■花川南中学校学習支援

◇本事業の成果と課題◇　・・・・・・・・・・・・・32

◇地域コーディネーター顛末記◇　・・・・・・・・・・・33～35

◇運営委員会名簿◇　・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

◇巻頭言～運営委員長あいさつ～◇

「地域とともにある学校」

石狩学校支援地域本部運営委員長

石狩市立花川南小学校長　　吉田　篤弘

令和２年度の石狩市学校支援地域本部の事業報告書の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

石狩市の学校支援地域本部事業は今年度で１３年目を迎え、本事業の活動は各学校の教育活動にすっかり定着しています。例年であれば、学校支援ボランティアの皆様に学校へお越しいただき、花壇の整備、水泳・スキー学習、算数・国語の検定等々、教育環境の整備や学習支援で、多くの学校が様々な形でお世話になっているところです。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの出現のため私たちの生活、学校教育は一変しました。春の長期にわたる臨時休業後、各学校は、教育課程を再編成し、子どもたちの学びの保障に取り組みました。感染拡大防止のため、本事業の活動は、中止、延期、縮小となりました。本校においては、「あい風寺子屋」を行っていますが、参加学年を制限し規模を縮小して実施しました。規模は縮小しましたが、参加している子どもたちの楽しそうに活動している姿を見ると、本事業のありがたさを感じました。この１年間、新型コロナウイルスの感染防止に努めつつ、教育活動を進めるに当たり、学校は、保護者や地域の皆様のご支援なしでは成り立たないことを改めて強く感じました。

学校は、すべての子どもが自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場であり、子どもにとって学校は、生活の一部と言える場所です。しかし、子どもの資質・能力は、学校のみではなく、多様な人々と関わり、多様な経験を重ねていく中で育まれるものです。今年度は小学校、来年度からは中学校が新学習指導要領の全面実施となります。「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という理念の下、学校と社会が目標を共有し、子どもたちの資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。学校支援地域本部事業の推進、コミュニティ・スクールの設立等を通して、さらに「社会に開かれた教育課程」を充実させ、地域ぐるみで子どもを育てることが大切です。学校と地域が手を取り合い、子どもたちを育てる本事業が益々発展することを願っております。コロナ禍において、ご協力いただきました地域の皆様、関係者の皆様にお礼申し上げご挨拶とします。

◇学校関係者から◇

『地域との確かなつながりを持つことが社会に開かれた教育課程づくりの第一歩です』

石狩市立紅南小学校　校長　和田　洋人

学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てることの重要性が求められる今日において、本事業が長きに渡って本校児童の成長を支え下さっていることに心より感謝申しあげます。今年度は新型コロナウイルスの発生により、活動が制限され計画通りに進まない事業がありました。協力をしたくてもできないなどの思いがコーディネーターをはじめ、協力員の皆様にあるのではないかと感じています。本来であれば、たくさんの教育活動に携わって頂いたお礼の言葉から始まるところですが、今年度は少し様子の違う書き出しになってしまいました。

さて、本事業のねらいの中で私が最も大切だと感じている事に、子どもが地域の大人とふれあう機会を与えてもらっている事があると昨年の報告書に記しました。その気持ちは、変わりませんが、今年度から完全実施となった新しい学習指導要領には、「社会に開かれた教育課程」の文言が最初にでてきます。その意味は、よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしながら、社会との連携・協働によってそのような学校教育の実現を図ることを目指すものをいいます。難しい言葉が並びますが、要は、学校と保護者、地域が一体となって子ども達を育てていかなければならないことを改めて文書にし、学校が目指す必須事項として明示しているのです。その背景には、「５G」の言葉で代表される情報化、グローバル化の加速度的な進展、人工知能（AI）の飛躍的進化など、一世代前の私たちには理解できないような予測困難な時代にあっても未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に子ども達に育むことが必要とさていることがあります。

私たちは、「便利さ」を追求してきました。いつの時代も、その「便利さ」が求められていましたし、不可欠だったのです。しかし、その結果（まだ追求途上にあるのですが）時代は高速化し、社会は複雑化したと思います。そのため、未来を想像するより、つい昔話をしては、思い出に耽ることが多くなりました。将来に不安を感じているのは、子ども達ではなく私たち大人です。しかし、未来への希望を語り、将来に夢を持たせるのが私たち大人の役割です。ですから、子ども達の手本としての姿や取り巻く環境の整備を実際に行っていく義務が生まれてきます。私は、地域の子育て共同体を構築することが求められる理由はそこにあると思います。学校は、地域の皆さんと子育ての課決の方策を共同して策定すること、そして、それを実行することを進めていかなければなりません。そのためにも、その目的や内

容、系統性などの見える化が必要となります。今、求められている社会に開かれた教育課程とは、先ず、子ども達を社会全体で守り育てるための継続的な体制づくりを確立することなのです。

本校では、春先からの「登下校の見守り」や「あいかぜ寺子屋」の開設、図書、スキーのボランティアなど本当にお世話になっています。皆様には、本校児童の学力向上に直接携わっていただいていることになり、本当にありがたいことだと感じています。

これからも本事業が継続し、地域ぐるみで子どもを育てる体制がさらに充実発展しますことを心から願っています。今後ともよろしくお願いいたします。

『　コロナ禍の中で　』

石狩市立双葉小学校　校長　山田　篤秀

いつもでしたら「『水泳学習』『ミシン学習』『かけ算九九検定』『スキー学習』のご支援どうもありがとうございます。」となるところでしたが、「水泳学習は石狩管内の中で」、「かけ算九九検定も飛沫感染防止対策のため」と二つのご支援は中止となりました。ただ、ミシン学習や１・２年生のスキー学習のお手伝いでは、密にならず、「かゆいところに手が届く」ご支援をいただき、本当にありがとうございました。

地域の方々にも気を配っていただき、学校にはなるべく入らない、密にならないご配慮をいただき、二つの支援をしていただきました。

今年度はなかなか出番が少なかったのですが、来年度こそ、いろいろなつながりで双葉小学校と連携を進めていただけたらと思います。今後ともご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

『　心を育てる教育活動　』に感謝して

石狩市立緑苑台小学校　校長　設楽　真奈美

毎年、本校では学校支援地域本部の皆様に大変ご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。今年度は、感染症拡大により難しい状況が続きましたので、その機会をもつことができなかった事は残念ではありましたが、次年度、また皆様の温かなご支援をいただけますことを楽しみにしながら、感染症の収束を願っております。

「自分達を温かく見守ってくださる」「いつも大きな包容力で励まして下さる」地域の皆様方に教わり、触れ合う機会を得る事は、その学習面の内容定着につながる良さもさることながら、子ども達が直に温かな眼差しや支援に触れる事そのものに、より大きな意味があると思います。触れ合いを通して、子ども達が地域への安心感やふるさとへの愛着を深めていく、正に『心を育てる教育活動』だからです。

次年度からは、市内一斉にコミュニティ・スクール制度が開始されます。地域の方々とのつながりもより一層深まることと、期待しております。今後も、保護者・地域の皆様と共に手を携えながら、自分の学校や地域を誇りに思う子ども達を育てて参ります。

『　コロナ禍での実施に感謝　』

石狩市立花川中学校　校長　佐藤　誠

今年度は、コロナに翻弄された年でした。４月に政府の緊急事態宣言の対象拡大を受けて４月 20 日から６月１日まで 42 日間の休校となりました。ご心配をおかけましたが、市教委の適切な指導による土曜授業の実施や夏休みの短縮、教育計画の変更などにより、教育活動を進めることができました。

本事業も、これまで通りとはいかず、地域コーディネーターの石田様と相談しながら進めました。花壇は苗植の時期が休校と重なり生徒不在、感染リスクなどを検討し、教職員で作業を行いました。ワックスがけと通学バス回数券の押印については例年通りお願いでき、教員の働き方改革にもつなげていただきました。コロナ禍での実施へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

欧米ではワクチン接種が始まり日本でも期待が高まっていますが、ワクチンは安全性が大切です。コロナの終息と地域の皆さまのご健康をお祈りしつつ、今後も本校へのご支援をよろしくお願い致します。

『　地域ボランティアの皆様にあらためて感謝　』

石狩市立南線小学校　校長　村山　浩

例年であれば、新１年生への清掃指導補助から始まり、５年生の家庭科（手縫い・ミシン掛け補助）、水泳学習支援と、地域ボランティアの皆様のご協力を頂くところでしたが、今年は、特別な１年となってしまいました。きっと、ボランティアの皆様方は、１学年進級し、成長した子ども達の顔を見ることを楽しみにしてく

ださっていたのだろうと推察をいたします。コロナ禍の中でしたが、子ども達は、感染予防のためのルールをしっかりと守り、自身で頑張るところは精一杯努力している様子が見られました。これも、今までご協力いただいたボランティアの皆様のご支援が、力となって子ども達の中に育っていたのだろうと思います。感染状況が落ち着きましたら、スキー学習のご支援をお願いする機会もあるかと思います。次年度からは、コミュニティースクールの制度が導入され、今までとは少し違った形でのご支援を頂くことになりますが、どうぞよろしくお願い致します。

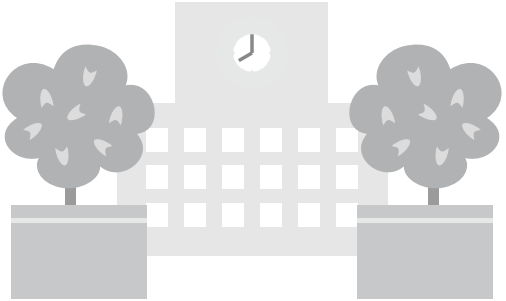
『　未来につながるすてきな支援　』

石狩市立生振小学校　校長　吉田かおり

石狩市学校支援地域本部のあらましを読み解くと、この事業は平成２０年度からスタートしたと記されています。三つの事業があり、活動は１２年が経とうとしています。その間、試行錯誤し子ども達のために支援をして下さった方が沢山にいらっしゃること、嬉しい気持ちでいっぱいです。

今年は、コロナ禍の中で「読み聞かせ」の皆さんの活動は制限されてしまいました。残念ではありますが、昨年までの皆さんの活動が子ども達の読書愛につながっていることは確かです。

休みの期間が長く、思うように勉強が出来なかった子ども達を心身共に温かく見守り支援して下さる授業支援。子ども達が大人になった時に、自分がどのように行動するとよいかの指針となります。自ら行動することで、現在のみならず、未来への道を作って下さるみなさんに心より感謝致します。ありがとうございます。



◇ボランティア実施状況◇

花川北中学校	紅南小学校	双葉小学校
① グラウンドの除草作業 実人数0名 0回　延べ0名 ② 花壇整備 実人数1名 62回　延べ62名	① 全学年「体育科（水泳学習）」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ② 花壇整備 実人数0名 0回　延べ0名 ③ 学校図書館支援 実人数9名 6回　延べ　34名 ④ 2年生「算数科（九九検定）」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ⑤ 1･2年生「体育科（スキー習）」支援 実人数17名 4回　延べ38名	① 全学年「体育科（水泳学習）」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ② 2年生「算数科（九九検定）」支援 実人数　0名 0回　延べ0名 ③ 5年生「家庭科（ミシン授業）」支援 実人数　3名 4回　延べ6名 ④ 1年生「体育科（スキー学習）」支援 実人数　17名 5回　延べ46名
２事業→１事業	５事業→２事業	４事業→２事業

花川小学校	緑苑台小学校	花川中学校
① 1～4年生「国語科(漢字音読検定)」支援　実人数0名 0回　延べ0名 ② 3・5・6年生「国語科(漢字書き取り検定)」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ③ 3年生「音楽科(リコーダー検定)」支援　実人数0名 0回　延べ0名 ④ 4年生「算数科(割り算の筆算検定)」支援実人数0名 0回　延べ0名 ⑤ 2年生「算数科(九九検定)」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ⑥ 1年生「生活科(伝承遊び)」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ⑦ 5・6年生「家庭科(ミシン授業)」支援 実人数0名 0回　延べ0名	① 1・2年生「体育科(スキー学習)」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ② 2年生「算数科(九九検定)」支援 実人数0名 0回　延べ0名 ③ 5・6年生「家庭科(ミシン授業)」支援 実人数0名 0回　延べ0名	① 「花壇の植栽作業」支援 実人数０名 0回　延べ0名 ② 「校舎ワックスがけ作業」支援 実人数　６名 １回　延べ６名 ③ 「通学バスチケット押印」支援 実人数　１名 ４回　延べ４名
７事業→0 事業	３事業→0 事業	３事業→２事業

南線小学校	花川南中学校	花川南小学校
① １年生「清掃指導の補助」支援　実人数　０名 ０回　延べ　０名 ② ５年生「家庭科（手縫い学習）」支援　実人数　０名 ０回　延べ　０名 ③ １～６年生「体育科(水泳学習)」支援　実人数 ０名 ０回　延べ ０名 ④ ６年生「家庭科(ミシン学習)」支援　実人数　０名 ０回　延べ ０名 ⑤ ３年生「体育科（スキー学習)」支援　実人数 ０名 ０回　延べ　０名 ⑥ ２年生「体育科(スキー学習)」支援　実人数　６名 ７回　延べ 17 名 ⑦ １年生「体育科(スキー学習)」支援 実人数　７名 ６回　延べ 15 名 ⑧ ５年生「家庭科(ミシン学習)」支援　実人数　０名 ０回　延べ　０名	① 「校舎１階廊下のワックスがけ」支援 実人数　０名 １回　延べ　０名	① 全学年「南小フェスタ」 →中止
８事業→2 事業	**１事業→０事業**	**０事業**

※

生振小学校
① 全学年「算数科」授業支援 実人数　２名 120 回　延べ 140 名 ② 全学年読書活動支援 実人数　５名 3回　延べ 15 名
２事業

◇学校支援ボランティアの実践◇

【花川北中学校】

活動その１	グラウンドの除草作業（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			
活動その２	花壇整備（継続）		
実施時期	５月から１１月までの毎土日　　６２回	活動参加者	１名（延べ６２名）

概　要

年間を通して交差点における横断の安全を見守っておられる森田明さん（石狩市子ども会育成連絡協議会長、紅葉山町内会）が、今年度も花川北中学校の生徒通用門前花壇と、職員玄関前花壇のお世話をしてくれました。そのほかに、生徒が行う花壇整備の不足部分を補うなど、シーズンを通してサポートしてくれました。

写真は、紅南小学校での低学年スキー学習での着脱支援に来られた時のものです。



【紅南小学校】

活動その１	全学年「体育科（水泳学習）」支援（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			
活動その２	花壇整備（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			
活動その３	学校図書館支援（継続）		
実施時期	１０月～３月　　６回	活動参加者	９名（延べ３４名）

概　要

コロナ禍のため、まず半年間活動休止となりました。１０月から再開しましたが、昨年までおこなっていた「読み聞かせ」が会場が密になるためできなくなりました。そこで、今年度の後半は「図書室の書架の清掃・床の水拭き清掃（冬・春休み直前の活動日）」をおこなうことにしました。ボランティアで協力し、図書室をきれいにしました（写真は床清掃の様子）読み聞かせが無い分、活動時間は約１時間に短縮されました。



活動その４	２年生「算数科（かけ算九九の検定）」支援（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			

活動その５	１年生・２年生「体育科（スキー学習）」支援（継続）		
実施時期	１月２１日（木）～２月１日（月）　４回	活動参加者	１７名（延べ３８名）

概　要

屋外での活動のためコロナへの不安が減少し、今シーズンも校区の６つの町内会（花川中央・ライラック・紅南・花川北白樺・あさひ・紅葉山）と、高齢者クラブ（白樺翠会）から合計１７名の方々が集まり、初めてスキー学習に挑戦する１年生を中心にサポートをしてくださいました。すでに手がかからなくなっている２年生（１回実施）と違い、「靴を履く」「スキー板をつける」のは１年生にとってたいへんな作業です。それでも回数を重ねるごとに自信を持って装具の着脱ができる子が増えていき、児童の成長の早さにボランティアの皆さんも目を細めておられました。



【双葉小学校】

活動その１	全学年「体育科（水泳学習）」支援（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			
活動その２	２年生「算数科（かけ算九九の検定）」（継続）		
実施時期	０回	活動参加者	０名（延べ０名）
実施せず			
活動その３	５年生「家庭科（ミシンを使った学習）」支援（継続）		
実施時期	１１月12日(木)・１９日(木)　４回	活動参加者	３名（延べ６名）

概　要

今年も、登録ボランティア１名と、保護者２名で５年生のエプロン作りの支援に入りました。ミシンの使い方やアイロンがけの要領を伝えることができました。保護者のお一人は事前に来校して、ミシンの調子を整えるという配慮をしてくださり、たいへん助かりました。ボランティアのサポートのおかげで手際よく作業が進められ、ミシンを使った初めての学習を、余裕を持って終えることができました。



活動その４	１年生・２年生「体育科（スキー学習）」支援（継続）		
実施時期	１月２２日(金)～２月５日(金)　５回	活動参加者	１７名（延べ４６名）

概　要

屋外での活動のためコロナへの不安が減少し、今シーズンも校区の６つの町内会（緑苑・北陽・緑・若葉・北六条・すずかけ）から計１７名の方々が集まり、初めてスキー学習に挑戦する１年生を中心にサポートをしてくださいました。１年生にとって、「靴を履く」「スキー板をつける」のもたいへんですが、練習場所の若葉公園に上がるわずかな段差を乗り越えるのも難関です。担任・支援員の先生方と、ボランティアの皆さんのサポートで、スムーズなスキー学習への送り出しができました。



【南線小学校】

活動その１	**１年生「体育科（スキー学習）」支援（継続）**		
実施時期	１月２９日(金)・２月　１日(月)・２日(火)・３日(水)・４日(木)・５日(金)　６回	活動参加者	**７名（延べ１５名）**

概　要



大きなバックを肩にかけ、背丈ほどもあるスキーを引きずるように、グラウンドにやってくる児童たち。とても大変そうです。

けれども先生の「自分でできることはがんばります。」の合図で「がんばります!!」と大きな声で私たちに挨拶をする声は元気いっぱい。いそいそと準備をする姿は微笑ましいものです。児童たちがうまくできないことの一つは、スキー袋のバンドのフックを外すこととカチッとはめる動作です。二つ目にはスキー靴のバンドを締める時バンドの留め金がなかなかかけられません。手袋をはめたままでジッパーの先を掴むことも苦手です。手を出しすぎないように注意しながらも、つい手助けをしすぎることがあり、反省しながらの支援でした。

活動その２	**２年生「体育科（スキー学習）」支援（新規）**		
実施時期	１月２７日(水)・２８日（木）・２月１日(月)・３日(水)・５日(金)・８日(月)・９日（火）　７回	活動参加者	**６名（延べ１７名）**

概　要

２年生ともなるとグラウンドに集合する様子にも落ち着きと余裕が見られます。スキー用具の装着はほとんど自分の力で進めていますし、終了後の後片付けもとても早くできます。さすが２年生だなぁと感心させられます。整列でも前列の４人に合わせて、来た順から適度に間隔を置いて整然と座って待つ姿も堂に入っています。とは言え、スキー靴のバンドを締める際には力が足りなくてパチッとセットできなかったり、スキー袋のバンドが外せなかったりする児童もいます。



そんな時には、私たちボランティアに声をかけてきます。手伝ってもらった後には、小さな声ながらも「有り難うございます。」と感謝の言葉をしっかり伝えてくれます。今年は吹雪や寒さのため、早めに切り上げる日もありましたが、多くの児童がしっかりと臨機応変に行動できていたと思います。来年は、ゲレンデにて楽しく立派にスキー学習ができることでしょう。

【花川中学校】

活動その１	**全学年「校舎１階ワックスがけ」支援（継続）**		
実施時期	**８月１７日(月)　　１回**	活動参加者	**６名（延べ６名）**

概　要

前年と同じく５月中に「花壇の植栽」支援を計画しましたが、新型コロナ感染拡大のために、学校が休校になり残念ながら中止となりました。

その後、学校から要請があり、夏休み中１回でしたが、校舎１階フロアーの床ワックスがけ作業を実施しました。当日の作業には、近隣の２町内会から６名のボランティアさんの参加がありました。作業は、午前２時間・午後２時間の計４時間ほどでした。暑い時期に関わらず参加してくれた皆さん、ご協力本当にありがとうございました。



活動その２	**「通学用バスチケット押印作業」支援（継続）**		
実施時期	**１１月２日(月)～１１月６日(金)　全４回**	活動参加者	**１名（延べ４名）**

概　要

花川中の自転車通学の生徒の多くは、１１月下旬から来春までの冬期間、前年度の同じくバス通学になります。今年度も前年と同じく、学校から１０月中旬に依頼があり、今年度も前年と同じ方が作業をお願いしました。快く引き受けてくれ、期日までに４日かけてバスチケットの押印作業を行なってくれました。ご協力ありがとうございました。

【生振小学校】

活動その１	全学年授業支援		
実施時期	４月６日(月)～３月２４日(水)　１２０回	活動参加者	２名（延べ１４０名）

概　要

２名の学習支援ボランティアさんが来校し、低学年の授業を中心に、授業支援をしてくださっています。

教職経験があり、学習中に、困っている児童やつまずいている児童にやさしく丁寧に教えてくださっています。おかげで、児童は、やる気を高め、粘り強く頑張っています。

様々な学習において、適切に支援してくださるので、指導をしている教師もとても感謝しています。



活動その２	全学年読書活動支援		
実施時期	１０月７日(水)～１０月３１日(水)　３回	活動参加者	５名（延べ１５名）

概　要

本校は「スイートピーの会」という読書活動支援の有志の方々に毎週水曜日の朝にお越しいただき、本の読み聞かせをしていただいています。今年度は、新型コロナウイルス感染症により、実施を見合わせ、１０月から開始しました。５人の会員の方が、様々な学年に入り、本を実物投影機に映すなど、工夫しながら取り組んでくださいました。子ども達も水曜の朝を楽しみにしていました。しかし、また、感染症が拡大し、再度実施を見合わせました。読書月間での、イベントも計画できませんでした。



◇関係者からのコメント◇

■紅南小学校の関係教職員からのコメント

「『おらが学校』学校支援地域本部の皆様に感謝」

紅南小学校　教頭　保谷　剛

石狩市学校支援地域本部のボランティア皆様には、日頃よりお世話になっております。毎年本校児童のためにご尽力下さる皆様には、感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございます。

今年度は学校支援地域本部の皆様にも色々とご不便をおかけしました。皆様のご健康、そして子ども達の健康のためとはいえ「かけ算九九検定」「読み聞かせ」などの活動を中止とせざるを得なかったことにつきましては、大変残念に思っております。しかし、「図書室の管理」を中心とした学校図書館支援、低学年のスキー学習支援にあたる「スキーボランティア」等、多岐にわたり１年間ご支援してくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。特に真冬の寒い屋外で、低学年児童のスキー・スキー靴着脱のお手伝いをしていただいたのは、大変助かりました。学級担任・支援員だけでは手が回らない箇所を丁寧にケアしていただき、まさに「かゆいところに手が届く」ご支援でした。地域の方々のこうした支えがあって、学校の教育活動が成り立っていることを改めて感じた次第です。

地域による学校支援事業がこれからも息の長い活動となり、それらが子ども達の成長につながり、成長した子ども達が地域の中で生き生きと活動していく良い循環が、これからも続くことを心より願っております。

「新しい時代こそ地域の力を」

地域支援本部事業担当　主幹教諭　長坂　文彦

今年度も、低学年の学習活動や図書活動を中心に、地域ボランティアの方々による学校支援が充実したものになりましたことを喜び、感謝申し上げます。今年度は特に、なかなか予定通りには進まなかったものの、その分、より充実した活動に至ることが出来たのではないかと感じ、深く御礼を申し上げたい気持ちになります。

令和の時代に入り、GIGA スクール構想が開始されようとしている現代は、新しい時代に突入しつつあります。世の中には、高速インターネットの世界が広がり、教育の世界でもそのテクノロジーをフルに活用しようとしています。大切なことは、人とのつながりです。新しい時代こそ、人とのつながりを大切にし、より主体的に学ぶ子ども達の姿が求められていきます。そうした中だからこそ、地域の方たちとの関わりを大切にすることが、とても重要であると私は考えます。本校では、その体制が長年の積み重ねにより充実しており、まさに、「新しい時代にこそ地域の力を！」を実現している地域であると、自負しております。今年度も、皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

スキー学習支援「支援の力が子どもたちの成長に」

１年担任　寺島　日高

紅南小学校では、毎年１・２年生の子ども達がグラウンドでスキー学習を行っています。その際に地域ボランティアの皆様に来ていただき、スキー袋からスキーを出す、スキー靴やスキーを身に付ける、スキーを片づけるなどの支援をしていただいています。何から何までしてあげるのではなく、実態に応じて子ども達が自分でできるように支援してくださっています。スキー学習を通して、スキーの技能の向上だけではなく、スキーの準備や片付けなど自分でできることが増え、子ども達も達成感や満足感を感じていました。屋外での活動ということで寒さや降雪など厳しい気候の中での活動でしたが、子ども達にとって大変有意義なものとなりました。ぜひ、来年もご支援いただければ幸いです。地域ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

■花川北中学校の関係教職員からのコメント

「環境整備と見守りに感謝」

担当教諭　馬場　知子

今年度はコロナ禍で例年通りに花壇活動を実施することができませんでした。しかし、いつもと変わらない花壇がありました。ここ数年ご自宅で育てられたペチュニアやベコニアを職員玄関脇と校門前の花壇に植えていただき学校生活に彩りを添えていただきました。いろいろな会合等でお忙しい中、水やりや草とりなどの時間をつくって活動していただき大変ありがたかったです

また、子ども達が登校するよりも早い時間帯から雨の日も雪の日も毎日通学路で見守りをしていただきました。子ども達が声をかけてもらい喜んでいました。本校の旧職員として、地域住民として森田様には様々な場面で支援していただきありがとうございます。

いつまでもお元気で無理をなさらずに支援していただければと思います。

■双葉小学校の関係教職員からのコメント

「地域の方々に支えられて」

地域支援本部事業担当教諭

松尾　純子

例年であれば、『おらが学校応援団』の方々の支援を受けながら水泳学習（全学年）、かけ算九九の検定（２年生）、ミシンを使った学習（５・６年生）、スキー学習（１・２年生）を行う予定でした。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策として、残念ながら活動の多くを中止せざるを得ませんでした。特に、かけ算九九の検定では、『おらが学校応援

団』の方々に覚えた九九を聞いてもらうのを楽しみにしていた２年生から、残念がる声が多く聞かれました。やはり本校の教育活動は、地域の方々に多くを支えられていることを改めて実感しました。

今年度は限られた中での支援となりましたが、子ども達への温かい励ましの言葉をたくさんいただき、安心して学習に臨むことができました。回数を重ねるごとに、ミシンもスキーも上達が見られました。子ども達にとって、地域の方々に見守られて学習や活動ができることは幸せなことです。

これからも、大切な子ども達が笑顔で伸び伸びと成長していくために、学校と地域が力を合わせていくことを願っております。今年度の支援に大変感謝致します。来年度もまたよろしくお願い致します。

「ミシン指導ありがとうございました」

５年担任　菊地　洸大　・　畑中　匠

５年生は、家庭科でエプロンづくりをしました。コロナ禍で感染防止対策を取った上でのミシン指導でしたが、地域のボランティアの方々には、ミシンの使い方を教えていただいたり、アイロンがけの補助をしていただいたりと、たくさん助けていただきました。事前に来校して、ミシンの調子を整えていただき、子ども達もスムーズに活動に入ることができました。初めてミシンに触る子も多かったのですが、大変手厚く支援していただきました。活動中は、上糸と下糸の調節ぐあいが悪くなったり、糸が絡まったりするハプニング等もありましたが、ボランティアさんに素早く対応していただきました。おかげで子ども達は、安心してエプロン製作に取り組むことができました。

教えていただいたことを自分たちなりに工夫し、縫うスピードの調節や返し縫いを実践する姿も見られ、成長を感じました。また、エプロンが完成した時の、満足そうな子ども達の笑顔や喜びや達成感を感じた様子が印象的でした。初めてのミシン作品は、子ども達の思い出に残るものとなったと思います。ご協力いただいたボランティアの方々、本当にありがとうございました。来年も引き続きよろしくお願いいします。

「優しく細やかな対応に感謝を」

１年担任　大本　範子　・　鹿野内　里恵

今年はコロナウイルスの影響下で水泳学習が中止になり、スキー学習においても感染対策をしながらと、例年通りにいかないような不自由な状況でした。それにも関わらず地域ボランティア『おらが』さんには、１，２年生ともにお世話になり大変感謝しています。

低学年はまだ、スキーを運んだり靴を履いたりすることに慣れておらず、足元もおぼつかない子ども達が多いのです。そういった子ども達に対して自分の力でできるような励ましであったり手助けであったり、優しく細やかな対応をしていただいたおかげで、安心して学習することができました。学校においても家族や地域の方々にお世話になりながら成長してるのだとい

うことは学年を通して学んでいきますが、今回のように『おらが』さんにお手伝いいただくことでよりいっそう実感することと思います。今年度も手厚い支援をありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

■花川中学校の教職員やボランティア関係者からのコメント

「地域の子ども達のために」

学校支援地域本部事業担当　事務職員　高松　健輔

今年度は、夏休み中の校舎のワックスがけ作業、冬場の通学バスチケットの押印作業に延べ６名のボランティアの方を派遣していただきました。

毎年行っている花壇作業については、９名の方が参加してくださる予定でしたが、コロナによる休校で作業自体が中止になってしまいました。毎年ボランティアの方のアドバイスを受けながら、生徒も楽しんで活動していただけに非常に残念です。

今年度はコロナの影響により思うように活動できず、ボランティアの方々を集めるのも大変だったと思います。そんな中でも、ワックスがけやバスチケットの押印作業を支援していただいたのは大変ありがたいことです。

今後も、地域の子ども達のために、地域と学校の連携を強化して地域とともにある学校づくりを進めていくために、是非たくさんのご助力をいただければ幸いです。

１年間ご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。

「コロナ禍と学校」

花川中央町内会　会長　堀江　洋

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの暮らしを一変させました。学校環境においても相次ぐ休校や時差登校など、これまでにない厳しい状況下での運営を強いられた事と思います。

そのような中ではありましたが、夏休み中の８月１７日（月）「校舎１階床ワックスがけ作業」を、地域コーディネーターの石田さんと私たち支援者５人とで実施しました。コロナ禍での作業なので、半日で仕上げて解散となり、学校の現状を窺い知る事はできませんでした。

その後、学校から町内会に届けられる学校だより『望岳』を拝見しておりますが、学校関係者の工夫や努力により、対応されている事を認識しております。現在も第３波が進行中でありますが、早期に収束されることを願うばかりです。

■南線小学校の教職員やボランティア関係者からのコメント

「ありがとうございました」

南線小学校　１年生担任

この度は、１年生のスキー授業のお手伝いをしていただきまして大変ありがとうございました。今年度は、コロナ禍で、学校に他のほとんどのボランティアの方々に来ていただけない状態だったので、スキーボランティアの方もあきらめておりました。それなのに、一番大変な最初の何時間かに、スキー靴の履き方・スキーの脱着・後片付をお手伝いいただき、本当に助かりました。あきらめていた分、なおさらでした。おかげさまで、今年度のスキー学習も無事に終えることが出来ました。子ども達もだいぶ上手にスキー靴を履くことが出来るようになりました。本当にありがとうございました。また、ものすごく気温が低い日や、吹雪の日があったにもかかわらず、快くお手伝いしてくださったことにも感謝の気持ちでいっぱいです。来年も何卒よろしくお願いします。ボランティアの方々におかれましては、お身体をご自愛いただき健康に過ごされますよう、お祈り申し上げます。

「子どもの笑顔を引き出すボランティア」

南線小学校　２年生担任　松原　智恵

今年度、２年生は、「スキー着脱補助の支援」のボランティアをお願いしました。子どもによって、得意とする事と苦手にする事とが違います。ですから、一人一人の個性に合わせた支援がとても大切だと考えています。しかし、担任一人ではなかなかできず、支援の難しさを感じることがありました。

今回、この事業のボランティアを利用することにより、スキーの着脱の苦手な子、マイペースな子も手厚い支援を行うことができ、「自分はできる。」という達成感を持たせることができ、担任一同本当に感謝しています。いつも、自分がもう一人いるといいなと思っていたことが、ボランティアをお願いすることで、視野が広がり、子ども達により良い経験をさせることができました。

来年度もこの事業を活用して、子ども達の成長をボランティアの皆さんと一緒に見守っていければと思います。本当にありがとうございました。

「スキー学習のボランティア」

地域ボランティア　大西　美津子

今年も声をかけていただきお手伝いすることが出来ました。とてもありがたいことだと思っています。

それはなぜかと言いますと、元気になれるからです。子ども達の顔を見ることで、又、同じくお手伝いしている人たちとお話ができるからです。教えることの難しさ・・・・手を出さず見守りの中で、子ども達が自分でできるように手伝うってなかなかです。「先生ってすごいなぁー」と思います。

私はつい手を出してしまう・・・いけませんね(反省)

子ども達にもそれぞれ個性があります。それらを見ているといろいろと考えさせられます。改めて勉強になるのです。私にも同じ年頃の孫がいるので、その子の考えとか思いをくみ取り理解するって大事なことだと思うのです。

子育ては大変だけど楽しい、そんな気持ちでできたらいいですね。自分の子育ては２０数年以上も昔に終わり、今、孫と同じような子ども達と触れ合えてとても嬉しいのです。有り難うございました。



◇あい風寺子屋教室◇

【花川南小学校】

主に金曜日の放課後、地域の方々にも指導をいただき、小学校１～３学年を対象に、様々な文化・体験活動プログラムを実施しています。（平成２３年度開始、取組１０年目）今年度は、新型コロナ感染防止対策のため、回数を削減し人数を制限するために学年などを選定して取り組んだ。また、ボランティアへの声掛けも最小限とした。

（１）実施状況

■低学年対象　主に金曜日の放課後

	月　日	内　　容	講師・指導者等		１年	２年	３年	合計
1	7.10　金	はじまりの会 読み聞かせ・クイズ	コーディネーター 石狩トーク☆クラブ	5	26	13	11	50
2	7.17　金	バルーンアート	吉田　由紀恵 コーディネーター	5	31			31
3	9.11　金	マジックショー	マジックレインボー　山本　治 コーディネーター	5		35		35
4	9.25　金	読み聞かせ	石狩トーク☆クラブ コーディネーター	6	36			36
5	10. 9　金	昔あそび 「けん玉」① （３学年優先）	厚真町社会教育課 厚真けん玉クラブ　斉藤　烈 コーディネーター	7	8	11	6	25
6	11. 6　金	昔あそび 「けん玉」② （１.２学年優先）	石狩市けん玉名人 寺尾陽助・薩来翔希 コーディネーター	6	23	2		25
7	12.11　金	おしまいの会 （読み聞かせと 振り返り）	コーディネーター他	4		15	7	22
				38	124	76	24	224

合計７回　　支援ボランティア　延べ　　38名(人数13名)

参加児童数　　延べ　224名

◇あい風寺子屋教室◇

（２）活動風景　～花川南小学校～



7/10　「はじまりの会」（第１回）



7/10　「はじまりの会」（第１回）



7/17　「バルーンアート」（第2回）



7/17　「バルーンアート」（第2回）



9/11　「マジックショー」（第3回）



9/11　「マジックショー」（第3回）

あい風寺子屋教室◇



９/２５　「読み聞かせ」（第４回）



９/２５　「読み聞かせ」（第４回）



10/9　「昔遊び・けん玉」（第５回）



10/9　「昔遊び・けん玉」（第５回）



11/6「昔遊び・けん玉」（第６回）



12/11　「おしまいの会」（第７回）

◇あい風寺子屋教室◇

【紅南小学校】

土曜日の午前中と水曜日の放課後、主に地域の方々に指導をお願いし、小学校１～３学年を対象に、様々な文化・体験活動プログラムを実施しています。（平成２７年度開始、取組６年目）
今年度は、新型コロナ感染防止対策のため、回数を削減し人数を制限するなどして取り組んだ。また、ボランティアへの声掛けも最小限とした。

（１）実施状況

■低学年対象　土曜日の午前・水曜日の放課後

	月　日	内　　容	講師・指導者等		１年	２年	３年	合計
1	6.24　水	・はじまりの会 読み聞かせ・クイズ	コーディネーター 石狩トーク☆クラブ	5	5	7	4	16
2	7.11　土	バルーンアート	吉田由紀恵 コーディネーター他	5	9	6	6	21
3	9. 2　水	・マジックショー	山本　治 コーディネーター	4	6	9	4	19
4	9.23　水	・読み聞かせ	石狩トーク☆クラブ コーディネーター	7	4	4	1	9
5	10.14　水	・昔あそび 「けん玉」	石狩市けん玉名人 寺尾陽助・薩来翔希 コーディネーター	7	5	8	3	18
6	11.11　水	・ぱっとぱっと ゴルフ	コーディネーター他	4	6	10	4	20
7	12.12　土	①おしまいの会 読み聞かせ・ 振り返り	コーディネーター他	4	6	9	2	17
				42	41	53	24	118

合計７回　　支援ボランティア　延べ　　42名（実人数12名）
　　参加児童数　　延べ　118名

◇あい風寺子屋教室◇

（2）活動風景　～紅南小学校～



6/24「はじまりの会」（第１回）



6/24「はじまりの会」（第１回）



7/11「バルーンアート」（第２回）



7/11「バルーンアート」（第２回）



9/2「マジックショー」（第3回）



9/2「マジックショー」（第3回）

あい風寺子屋教室◇



9/23「読み聞かせ」（第４回）



10/9　「昔遊びけん玉」（第５回）



10/9　「昔遊びけん玉」（第５回）



11/13　「待ち時間の手遊び」（第６回）



12/14「おしまいの会」（第７回）



12/14「おしまいの会」（第７回）

■あい風寺子屋教室関係者からのコメント

「　子どもたちが集い、学ぶ場『寺子屋教室』　」

花川南小学校　教頭　玉腰　武

市学校支援地域本部の皆様、多くのボランティアの方々による「あい風寺子屋教室」を、新型コロナウイルス感染症対応を行いながら、今年度も開催していただき、ありがとうございました。本校は、従前より地域との結びつきが強く、読み聞かせや学習支援などで、地域の皆様にお世話になっています。

寺子屋ならではの魅力として、学校では体験できないことができるというのがあると思っています。子ども達はたくさんの楽しい体験をさせていただきました。そして、楽しい教室を支える裏側として、毎回早くから準備に来ていただき、たくさんの道具・材料をお持ちくださったり、指導にもご労力をいただいたりしていることに感謝しております。

これらの取組は言うまでもなく、子ども達の学習意欲の向上、心の成長に大きく寄与し、学校そのものを「潤いのある楽しい場所に」してくださいました。改めて地域あっての学校であることを認識させられます。様々な場面でご支援いただいた皆様に、心から感謝いたします。

次年度以降もぜひ、寺子屋教室が開催され、子ども達の笑顔を見ることができたら幸いです。

「　あい風寺子屋の開催は、有難い！　」

紅南小学校　教頭　保谷　剛

今年度も本校では、多くの方々のご協力により「あい風寺子屋」が開催されました。臨時休業明けの開催がどうなるか心配していましたが、対象となる小学校１～３年生に、様々な文化・体験活動や学習支援を、愛情を込めて実施していただいたことに、感謝申し上げます。

「当たり前」のことだと思っていたことが、そうではなく、大変ありがたい(有難い＝そうであることが難しい。存在すること自体が稀少である)ことに改めて気づかされた今年度１ 年間でした。たくさんの方々が子ども達のために活動し、子ども達が喜々として寺子屋教室の日を迎えるこの地域の文化は、実施方法や規模が変わることはあっても、末永く続いてほしいと思っています。

改めて地域の方々に感謝申し上げますとともに、次年度も紅南小学校の子ども達へのご支援をお願い申し上げます。これからもご健康には留意し、子ども達が瞳を輝かせ、地域の担い手として成長できるよう、お力添えをお願いします。

「　今年度もありがとうございました　」

花川南小学校　あい風寺子屋担当　事務職員　神尾　萌

本校では今年度、７回の「あい風寺子屋教室」を開催していただきました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、開催が危ぶまれる中でしたが、活動場所の変

更、活動内容の精査、有効な感染症対策の検討など…、慎重に行っていただき、なんとか無事開催することができました。子ども達のためにという芯を持ち、協議を重ねていただいたこと、大変ありがたく感じております。

活動内容はマジックショーやけん玉、読み聞かせなど、幅広い内容で子ども達が夢中で楽しんでいる様子が伺えました。

来年度も「あい風寺子屋教室」が開講されるということで、引き続き地域と子ども達のつながりを作っていけたら幸いです。石狩市学校支援地域本部事業の方をはじめ、関わっていただく多くの方々のご発展をお祈り申し上げます。

今後ともよろしくお願いいたします。

「　放課後の居場所　」

紅南小学校あい風寺子屋担当　主幹教諭　長坂　文彦

「寺子屋楽しかった！」夏休み明け、本校の２年生が私に伝えてくれた言葉でした。笑顔で楽しかったことを教えてくれ、次も楽しみである気持ちを伝えてくれました。担当者として、とても嬉しく、充実した瞬間であったことを覚えています。

家へ帰ると１人だったり、インターネットの世界を通じて友だちとつながったり、そんな新しい時代を生き抜いている子ども達にとって、地域の方たちと過ごすことの出来る「あい風寺子屋」は、子ども達の心を豊かに育むとても素晴らしい活動であるといつも感じています。

毎回、講師として来て下さる先生方をはじめ、公民館の皆様のおかげで、本校の子ども達はとても恵まれた環境で育っています。これからも、地域の皆様との関係を大切にし、子ども達を様々な面から育てていきたいと思います。

地域の皆様へ、今年度も御礼申し上げます。

「　あたたかな寺子屋教室　」

石狩トーク☆クラブ　今井　文彦

普段、子ども食堂を運営している有志の集まりである私達。この厳しいコロナ禍でも、寺子屋教室を通じて子ども達と交流できたことをとても嬉しく思います。

学校とは単に知識を蓄える場所ではなく、生きていくうえで必要な知恵を育む場でもあると思っています。絵本を通じて子ども達の情操を豊かにし、人を思いやる心や、生き抜くために必要な知恵を育んでほしいと思います。そして何より子ども達が小さいうちから本に親しむ癖をつけてほしいのです。

大人になり様々な壁にぶち当たった時、私自身その解決の糸口が本でありました。本によって様々な考えを見聞し、時に励まされ、時に共感し自らの力となってくれました。

一人の世界はちっぽけだけれども、本の世界は無限です。子ども達にそういうことが理解できる日がきてくれれば良いなぁ・・・・・と思いながらこの活動を続けていきたいと思っています。

「　身近なものの驚き　」

マジックレインボー　山本　治

「あい風寺子屋教室・手品」は万全の感染対策の下、無事に終えることが出来ました。関係者の皆様お疲れ様、そしてありがとうございました。

子ども達に体験してもらうために、身近なもの…割りばしを使った手品を考えました。割りばしを片手で握ってその手を広げても割りばしが落ちないというものです。いろいろな方法が考えられますが、タネ明かしをしてやってみてもらいました。

割りばしを空中に浮かせることなども演じてみました。手品のコツを話すと目を輝かせて見入ってくれました。

一人一人の思いや行動がとても大事な時期でしたので、子ども達に次のような計算をしてもらいました。「新型コロナに感染した１人が２人にうつしてしまい、次の日にその２人がそれぞれに２人ずつうつしてしまう。感染した４人が次の日に・・・。」と大道芸がガマの油売りの口上のように『１人が２人２人が４人４人が８人・・・。』と倍々に増えていくとーか月(３０日)でどのくらいの人が感染するのかというものです。とんでもない数になり、「手品みたいにビックリ」と驚いてしまいました。

未来ある子ども達が、「自分一人くらい・・・」という身勝手から脱皮して、健やかに成長してほしいと切に願っています。

「　熱気でいっぱいバルーンアート　」

バルーンアート講師　吉田　由紀恵

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、南小の１年生と紅南小の１～３年生と実施しました。

７月１１日(土)は２１名参加の２時間でしたので輪と剣、ハートとリボンのリース作りを、７月１７日(金)は２８名参加の１時間でしたので輪と剣つくりに挑戦しました。作った輪と剣で剣を使って輪を飛ばしたり剣先をひっかけて回したり、お友だち同士間隔をとって輪渡しをする遊びを紹介しました。紅南小でのハートとリボンのリース作りでは、普通よりも細い風船を２本使用し輪を作り、ハート型に形を整えもう１本でリボン型を作ってハートに組み合わせて壁飾りが出来上がりました。

「バルーンアートは初めて」という児童が多い中、３分の１位の児童は「風船をひねったことがある」とも言っていました。

どの児童も真剣に取り組んで作っていたのが印象的でした。皆が喜ぶ姿に「菱まなきゃいいのにな。」などと励まされました。

寺子屋教室の取り組みに参加させていただいたことを心より感謝申し上げます。

有り難うございました。

「　子どもたちをつなげる『けん玉あそび』　」

石狩市厚田支所地域振興課　寺尾　陽助

今年度からメニューに加わったけん玉、全３回の内２・３回目で指導させていただきました。依頼を受けた当初は、遊び方の基礎を教えようと考えていましたが、１回目の講師

として事務局が招聘した厚真町の斉藤社会教育主事の進め方がとっても素晴らしかったことから、その内容を参考に内容を組み立てました。
　上手に玉や剣に乗せられない子もいる中、けん玉にふれてもらう、好きになってもらうための“けん玉積み木”“ユニコーン遊び”などは、従来の遊び方には無い発想で、目からウロコでした。
　最初は「けん玉が嫌い」と言っていた子が、終わった頃には「好き」と言っていたり、最後までまったく飽きずに遊んだりしている姿を見て、けん玉がコミュニケーションや居場所づくりのツールとしても大変優れていることを実感し、指導をしつつも貴重な経験をさせてもらいました。
　もちろんのことですが、子ども達が自身の技術を向上させることも大切なので、あい風寺子屋から“けん玉名人”が生まれることを期待しています。

「　けん玉 × 子ども達 ＝ 最高の笑顔　」

石狩市教育委員会社会教育課　社会教育主事補　薩来　翔希

　けん玉は、コロナ禍において、３ 密対策を取ることができ、自宅で一人でも楽しめる遊びとして開催する運びとなり、私は社会教育課の職員としてではなく、けん玉の講師として寺子屋に参加させていただきました。
　初めての講師ということもあり、楽しんでくれるだろうかと不安な気持ちで当日を迎えましたがそのような心配は全くの無用でした。
　子ども達のけん玉に触れた瞬間から伝わる“ワクワク”、心から楽しさがあふれ出る“ウキウキ”、講師の説明を聞くときの目の“キラキラ”。説明が終わる途端に始まる質問攻めと「僕を、私を見て!!　見て!!」のアピール。私の寺子屋でのニックネーム「さっつん」を無邪気に連呼する姿。すべて、寺子屋に携わったから味わうことが出来たものであり、時間にすると１時間少々でしたが、寺子屋から学ぶことは本当に多く、これまで支えてきてくれた方たちに感謝しつつ、子どもを支える輪がいつまでも続くように職員として、また、講師としても携わっていきたいと強く感じました。
　子ども達の無限のパワーを生かせる寺子屋は、互いに楽しく、その中に学びもある、社会教育の理想的な形の一つであると確信しています。
「もう考えていますよ。次の寺子屋は何をしようかな～？ どんな笑顔と会えるかな。」

■あい風寺子屋教室の成果と課題《花川南小学校・紅南小学校》

　今年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のための学校の休校に伴い年度当初の実施を見合わせていました。登校再開後、学校の理解と協力によって６月下旬より始めることができました。感染予防の徹底のために計画していた実施内容を変更して参加者を募集しましたが、応募者数が予想以上に多く、学校担当者の協力や児童・保護者の理解を得ながら、活動内容や参加人数を調整して両校とも７回ずつ実施することができました。

（1）さまざまな体験活動・文化活動

　例年実施してきた活動を見直し、最大限の感染防止対策を講じて子ども達の興味関心を高めることのできる内容を吟味し体験活動・文化活動を中心に取組みました。特に伝統的な遊びでは、ソーシャルディスタンスを図りながら実施し、子どもが一人でもまた家庭で家族とも取組める内容を考慮して「けん玉」を取り上げることにしました。

全道的にけん玉の普及に努めている厚真町社会教育課の斉藤烈氏を講師に実施したけん玉教室では、けん玉を使ったいろいろな遊び方を教えてもらい、子ども達が大いに楽しんだだけではなく、スタッフの研修の場にもなりました。また、マジックショーでは見て楽しむだけではなく児童が家庭で披露して家族で「おうち時間を楽しむ」ようにと、簡単なマジックの仕方を教えてもらい子ども達は果敢に挑戦していました。「はじまりの会」や「おしまいの会」では、スタッフによる「石狩クイズ」や「鈴木トミエ作『鹿と鮭と水の神様』（読み聞かせ）」を通して地域の文化に触れる取組となるよう工夫しました。

（2）地域の方々や学校の協力

地元町内会の協力を得ていた百人一首やかるた、囲碁などはソーシャルディスタンスを図ることができないためすべて中止しました。そのためボランティア団体や市の職員、教職経験者等に講師や指導者としての協力を得て、学校の理解を得ながらできることに取組みましだ。「読み聞かせ」では学校の協力により体育館などの広いスペースでスクリーンに絵本を映し５０人以上の子ども達に居場所を提供することができました。「バルーンアート」では、講師の工夫により短時間でできるものづくりの楽しさを味わわせることができ、子ども達が大きな袋に作品を入れ大切に抱えながら笑顔で帰る姿が忘れられません。

（3）居場所づくり

低学年児童の居場所として、毎回のように応募してくる児童が多くいましたが、コロナ感染防止のために参加人数を制限しなければならず、３年生の参加者が減ったことが残念でした。コロナ禍で学校外の活動が制限された子ども達にとっては、仲間と活動できる寺子屋教室も魅力のある居場所だったということを痛感しました。小学校低学年児童にとっての、放課後の居場所の一つとして、また、地域のボランティア(大人)の方々との触れ合いの場として効果的な取組でした。

（4）設定の工夫

今年度は実施内容や児童の募集について大幅に見直し実施日を設定した。地域コーディネーターやボランティア講師とも相談して、感染防止対策を第一に踏まえた内容にしました。反省点としては、子ども達には土曜日の実施に負担があった様子で、家庭連絡をする場面が多かったことです。

次年度は、実施日を課業日の放課後に設定したいと考えています。

（5）今後の方向性

学校支援本部事業の一環として取組み始めた「あい風寺子屋教室」ですが、花川南小学校は開始から１０年、紅南小学校は開始から６年が経過しました。それぞれに、学校の多大な理解と協力のもと、地域のボランティアの方々にも取組そのものの理解が浸透し、ボランティアの方々の主体的な活動場面が多く見受けられるようになってきました。

特に今年度は打ち合わせ会議なども極力少なくして取組んだため、過年度の反省を生かすことはできませんでしたが、地域コーディネーターがそれぞれの経験を活かし、地域のボランティアの理解と協力を得て例年に劣らない取組ができました。

家庭教育支援につながる放課後の子ども達の居場所「寺子屋教室」は、地域で子どもを育てることや子どもの居場所づくりをめざし、地域の協力・支援のもと花川南地区の２校で実施してきました。この様な取組は、コミュニティスクールの導入に伴い、今後多くの学校区で実施されていくことになるでしょう。そのためには、更に多くの世話役として活躍してくれる地域コーディネーターやボランティアの協力が必要となります。家庭学習に繋げる放課後の学習支援も含め、長期的な「寺子屋教室」のビジョンや具体的スケジュールの策定、内容・方法等について時間をかけて検討する必要性があると考えます。

◇放課後すこやかスポーツ教室◇

学校支援地域本部事業の一環として、「放課後スポーツ教室」事業を実施しています。放課後、各小学校の体育館において、その小学校に通う児童を対象に、運動能力向上のための多様なプログラムや食育指導を行い、児童の健やかな育ちの実現と、放課後の児童への居場所を提供するものです。

（１）活動概要

①実施校～　南線小・花川南小・紅南小・緑苑台小・双葉小（計５校）
②実施回数～　週１回、約１時間×３０週（１年間）　※５月～３月
③対象学年～　４・５年生
④実施内容～　コーディネーショントレーニング・ボール運動・体力測定・食育指導など
⑤指導者～　スポーツインストラクター（有資格者）
協働事業者：アクトスポーツプロジェクト
（総合型地域スポーツクラブ）

※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、５月は全校で活動を休止しました。

（２）活動風景（主なもの）









（3）実施状況

学校名	南線小学校	花川南小学校	紅南小学校	緑苑台小学校	双葉小学校
曜日	火曜日	水曜日	月曜日	水曜日	水曜日
時間	15:30～ 16:30	14:30～ 15:30	16:00～ 17:00	14:30～ 15:30	14:30～ 15:30
実施	人数/回数	人数/回数	人数/回数	人数/回数	人数/回数
5月					
6月		11名/1回	15名/2回	18名/1回	
7月	134名/3回	25名/2回	21名/3回	48名/3回	
8月	45名/1回	26名/2回	6名/1回	32名/2回	
9月	118名/3回	50名/4回	15名/3回	62名/4回	
10月	81名/2回	29名/3回	前期のみ実施	18名/1回	47名/3回
11月	124名/3回	29名/3回		19名/1回	63名/4回
12月	156名/4回	30名/3回		17名/1回	81名/4回
1月	72名/2回	20名/2回			
2月	38名/1回	28名/3回		33名/2回	68名/3回
3月	36名/1回	10名/1回		35名/2回	
計	804名/20回	258名/24回	57名/9回	282名/17回	259名/14回

総計84回　参加児童数　延べ1，660名

◇中学生学習支援事業◇

花川南中学校を対象としたこの事業は、平成 28 年度に外部指導者活用事業としてスタートし、平成 30 年度からは学校支援地域本部事業に位置付けられ、今年度で５年目になります。

数学の授業時間、退職教員に入ってもらい、生徒の素朴な質問に答え、生徒の理解力向上に取り組んでいます。

《令和２年度実績》

参加ボランティア人数　４人

実日数　１３６日　のべ　４８７単位時数（２月末現在）

※3 月中の予定　14 日　37 単位時間数

◇成果と課題◇

石狩市学校支援地域本部事業は、１３年目の活動を終えました。今年度は、コロナ禍の中で学校も地域の住民も例年にはない苦労のあった１年でした。そのような中でも、数は少ないですが地域の皆様のご協力を得ながら取り組むことができた事業もありました。

⑴児童・生徒への影響

年度前半はコロナの影響で例年通りの活動ができなかったため、児童・生徒とふれあう機会がほとんどありませんでした。年度後半からは少しずつできることから活動していきましたが、密にならないように支援することが難しい状況でした。

今後は、コロナの影響下でも支援できるような方策を模索しながら、子供たちにどのようにして支援ができるかを検討していきたいと思います。

⑵学校に対する効果

コロナの影響で学校との連絡もなかなか取る事ができず、例年行っている支援がなかなかできませんでした。そんな状況の中で今回を機に今後の支援のあり方について学校と話し合いを行い、来年度以降についてより一層学校と地域コーディネーターが連携を深めていくことを確認しました。

⑶学校支援ボランティアにとっての意味

支援する機会は少なかったもののボランティアの皆様方は引き続き自分たちの技術や経験、支援活動が好意的に受け止められることに満足感・やりがいを感じていらっしゃるようです。「児童・生徒とのやりとりが楽しい、成長が見られて嬉しい」など、子ども達を温かく見つめ、逆に元気をもらえている方が多数おられることを感じました。地域の皆様の深いご理解ご協力に感謝申し上げます。

⑷情報発信に関わって

今年度はコロナの影響で活動が制限されたことから例年発行していた「おらが学校応援団だより」発行は行いませんでした。次年度以降活動が再開されれば、学校・地域の皆様などより多くの方に、この事業の活動を知っていただくためにも、おたよりの発行の再開や、啓発パンフレットの配布など、積極的に行っていく予定です。

⑸今後の方向性

「学校支援本部事業」が、「コミュニティ・スクール」の導入と関わりながら「地域学校協働本部事業」へと徐々に移行する動きの中で、学校と地域が互いにパートナーとして双方向の連携・協働をして子ども達を見守り、育てていくことが今まで以上に求められます。

その動きに合わせ、より望ましい学校と地域の連携のあり方を検討していくことが僅々の課題と押さえています。そのためにも、学校関係者や地域コーディネーターの皆さんと今後の方向性について協議する場を設定し、より効果的で充実した取組としていきたいと考えています。



◇地域コーディネーター顛末記◇

「9 年目は大変な１年でした」

地域コーディネーター　石田　靖夫 （花川中学校区担当）

今年度は新型コロナウィルスという、未知なる疫病が世界中に蔓延し、多くの国で若者から高齢者までの感染者や入院患者、死者が発生し、現在も尚、私たちの暮らしに多大な影響を与えています。日本の教育界においても例外ではなく、全国の小・中学校等は、児童・生徒の安全面を最優先に休校措置や学校行事の中止や延期等が実施されました。休校時にはオンライン授業そして登校時には、検温や手洗い、マスクが義務づけられ、教室内の換気や消毒が現在も行われています。このような状態では、昨年迄のように学校支援事業を実施することは極めて困難で、多くの学校の事業が中止となりました。

今年度は新たに八幡地区担当として松本史子さんをコーディネーターに迎え４名でスタートしました。私は９年目も花川中学校区の担当でした。しかし、「花川小」「緑苑台小」の２校は、学校側の要請もあり、新型コロナウィルス感染防止のため事業が中止になりました。「花川中」は５月に「花壇の植栽」支援を計画しましたが、休校となり実施できませんでした。夏休み中の１日のみ「校舎１階床ワックスがけ作業」支援で５名のボランティアさんが、また、「通学バスチケット押印作業」支援では１名の方が実施してくれました。

今年度を振り返ってみて、本当に大変な１年だったなと痛感しています。次年度もしばらくは続くかもしれませんが、今年度より良い状態になることを願っています。

「コロナとボランティア」

地域コーディネーター　戎屋　健一 （花川南・樽川地区担当）

予想だにしなかった新型コロナウィルスの感染拡大は、この１年間のボランティア活動にも大きな打撃を与えました。外出自粛要請による２か月間にも及ぶ休校措置には、今後の学校教育や児童生徒の学力はどうなるのだろうかと、大きな不安を覚えずにはいられませんでした。

それは、私たちが１０年余りにわたり行ってきた学校支援事業であるボランティア活動に於いても同様でした。何をおいても、ボランティアをしてくださる方々の健康を守るのが第一と考えると、果たしてボランティア活動そのもの

ができるのだろうかという不安です。
　学校側でも考慮されたのでしょう、例年行っていた「清掃支援」「水泳学習」「手縫い」「ミシンかけ」「ワックスがけ」等の要請はありませんでした。
　授業の遅れを取り戻す努力や、これまでにはなかったコロナ対策等の対応に先生方も大変な中で、欲しい支援もあったと思うのですが、現状を踏まえボランティア支援の要請はしないと決意された学校側のご配慮にコーディネーター側にとっては大変救われたような思いでした。この場を借りて心からお礼を申し上げたいと思います。
　唯一今年度実施されたのは「スキー用具の着脱」のボランティアでした。三密を避ける工夫をして注意した点は、待機を含めて授業の始めから終わりまでの時間を充てていた従来の方法を改めたことです。スキー用具を装着する支援と、スキー学習終了時の用具外しと仕舞うまでの支援とを、別々のボランティアさんに分ける方法でした。この方法だとボランティアさんに時間的な負担をかけすぎないという利点があります。今後にも生かせる方法ではないかと思います。
　「今日もよろしくお願いします。」と声掛けしてくれる１年生がいたり、わざわざ傍らに来て「お手伝いしてくれてありがとうございました。」と礼をしてくれる２年生がいたりして、驚きと嬉しさの両方を味わって締めくくることができた今年度唯一の支援事業でした。

「コロナ禍でもあたたかい応援が」

地域コーディネーター　根本　壽夫（花川北中学校区担当）

　石狩市学校支援地域本部事業の「おらが学校応援団」と「あい風寺子屋教室」の地域コーディネーターの担当６年目にして、たいへんなことになりました。
　言うまでもなく、新型コロナウイルスの蔓延です。感染を防ぐため、春先の早い時期からプール学習は全面中止と教育委員会から連絡がありました。図書ボランティアは読み聞かせに大勢の子が集まるため半年間休止となり、かけ算九九検定も対面で読み上げる子ども達の声を間近で聞くことが中止となりました。
　ミシン学習の補佐はほとんど会話を要しないので、かろうじて実現しました。残るは低学年のスキー学習（用具の着脱支援）です。ボランティア募集をかける前は、「地域の方々はコロナへの感染を懸念して募集に応じてくれないのでは？」と心配しましたが、何と！　多くのボランティアから数多くの当番申し込みがありました。
　例年ですとその日の当番に当たった方々は、児童が学習をしているあいだ、用

意された控室で４０～５０分待つのですが、密になるのを避けるため今回は「出発支援」と「到着支援」とに分けさせてもらいました。

協力する人数が余分にいないとできない割り当ての仕方ですが、十分間に合うだけの人数がそろいました。「子ども達を少しでもサポートしてあげたい！」というあたたかい気持ちが、その協力数の多さから強く感じられました。ご協力をくださった地域ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

コロナは必ず終息に向かうと信じています。再び和やかに子ども達と触れ合える日々を心待ちにいたしましょう。

「石狩八幡 CS 委員会活動について」

地域コーディネーター　松本　史子（石狩八幡小学校区担当）

石狩八幡 CS は令和２年度については石狩八幡小学校の開校に合わせて単独実施となり先行実践を重ねる年でしたが、新型コロナ感染拡大防止から活動が全面見合わせとなりました。

今年度は石狩八幡 CS 委員会を３回開催して活動方針・委員会組織・委員会規約・スローガン・来年度からの活動内容の協議を重ねて本格実施に向けての準備期間として位置付けました。

令和３年度からは石狩中学校も合同実施となるため、石狩八幡小・石狩中の委員会組織（事務局は石狩中その以後は隔年で担当）となります。

新型コロナ感染対策が続く見通しの中で、さまざまな制限はありますが、児童生徒の実態把握から地域に少しずつ視野を広げつつ、まずはできることから、「ゆっくり」「じっくり」と活動していくことを委員会で確認しました。

石狩八幡 CS の活動方針

（１）学校の教育活動に地域の教育力を
（２）地域・家庭・学校の連携による活動充実
（３）地域諸団体の活動充実（PTA との共催）

委員会組織

３部の構成は「地域コーディネーター部」「学校支援部」「広報部」とする

活動スローガン

子どもたちの夢や志を地域で支えよう　地域の底力を
私たちの自慢はふるさと石狩八幡　子どもの目線で

令和２年度　石狩市学校支援地域本部　運営委員会名簿

【運営委員】

No.	氏　名	所　属（役職等）	役　員
1	吉田　　篤弘	石狩市校長会（花川南小学校）	委員長
2	船橋　　秀樹	石狩市ＰＴＡ連合会会長（浜益小学校）	副委員長
3	簗瀬　　和夫	石狩市花川北連合町内会　会長	
4	水野　　和憲	石狩市花川南連合町内会　会長	
5	佐々木　建雄	元中学校教員	
6	板谷　　英郁	教育委員会生涯学習部社会教育課長	事務局長

【事務局】

No.	氏　名	所　属（役職等）	備　考
1	斉藤　　晶	石狩市教育委員会社会教育課主査（社会教育主事）	
2	石井　　悟	石狩市教育委員会社会教育課主査（社会教育主事補）	
3	佐藤　あき	石狩市教育委員会社会教育課主任	
4	高橋たい子	石狩市教育委員会 生涯学習推進アドバイザー	

【地域コーディネーター】

No.	氏　名	担当地区	担当校・所属(役職等)
1	石田　靖夫	花川中学校区	花川中学校・花川小学校・緑苑台小学校
2	戎屋　健一	花川南・樽川中学校区	花川南中学校・花川南小学校・ 樽川中学校・南線小学校・生振小学校
3	根本　壽夫	花川北中学校区	花川北中学校・紅南小学校・双葉小学校
4	松本　史子	石狩八幡小学校区	石狩八幡小学校
5	伊藤　学志		石狩市保健福祉部次長（子ども政策担当）

■石狩市学校支援地域本部事務局
石狩市教育委員会　生涯学習部　社会教育課　(石狩市公民館内)
電話 0133-72-3173　　ＦＡＸ 0133-74-2249